

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社フジコー	住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 804-0011 福岡県北九州市戸畑区中原西2丁目18-12
----	-------------------------	----	--

本票作成 部署名： 総務室

主たる業種 分類コード 22 業種名： 鉄鋼業

事業の概要 ①複合金属製品（ロール製品）の製造・販売・補修 ②複合金属製品（原料工程向製品）の製造・販売・補修 ③環境プラント製品の製造・販売・補修 ④操業関連作業 ⑤産業機械等の設計・製作・据付 ⑥光触媒製品の製造・販売

県内の主な工場等	番号	工場等の名称	所在地
	①	山陽工場	岡山県浅口市鴨方町鳩ヶ丘1丁目1298番地

特定事業者の該当要件  ①燃料等原油換算1,500kℓ以上  ②バス・トラック100台、タクシー250台以上  ③CO<sub>2</sub>換算3,000t以上  
(●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 28 年度)	( 令和 元 )年度排出量	目標年度( 令和 3 年度)
	4,981 t CO <sub>2</sub>	4,846 t CO <sub>2</sub>	4,931 t CO <sub>2</sub>

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	( 令和 元 ) 年度排出量
	①	山陽工場	4,846 t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>
			t CO <sub>2</sub>

削減目標の達成状況	計画期間：	平成 29 年度 ～ 令和 3 年度 ( 5 箇年度)		
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	( 元 ) 年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	26.9 %	5.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 CPC母材重量+溶解重量(t)	原単位当たり排出量		
		基準年度	( 元 ) 年度	目標年度
		2.160	1.578	2.052
	t CO <sub>2</sub> /( t )	t CO <sub>2</sub> /( t )	t CO <sub>2</sub> /( t )	

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(令和 元 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

5年計画において、基準年度より5%の削減目標をかけた平成28年度よりスタートした3年目として、対前年度より19.2%、基準年度である平成28年度より27.0%の温室効果ガスの削減ができたことは評価できる。一番の大きな要因として、2019年の生産高が過去最高の実績を残したことが大きい。金額もさることながら、原単位の基準になる「CPC母材重量とCPC溶解重量」が2019年度が3070tと2018年の2461tに対して127%と増加したことが大きい。最大のエネルギーである電気使用量は、2018年に対して2019年度が109%増となっている。2109年度の後半は、生産量の増加の対策として、2交替制をとることで、溶解炉が冷えない状態での使用を行い、効率生産となったことも要因である。また、コンプレッサーの更新での省エネ化。事務所内の省エネタイプのエアコンの更新なども僅かながらの改善になっていると考えられる。

**【推進体制】**

- ・省エネ法に基づくエネルギー管理統括者（本社）を中心とし、事業所におけるエネルギー管理者をリーダーとして管理体制を整備。
- ・エネルギー管理者を中心とした省エネ推進会議を定期的開催し、効率的な設備活動を実施、検証及び省エネ立案、検討を行う。
- ・省エネセンターを活用した省エネ診断や、民間の省エネ指導等も活用。

**【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】**

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
	<p>(2019年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネセンターによる省エネ診断を行い、その中で、コンプレッサーが定格55kwに対しての使用量の実績が少ないため、定格37kwのコンプレッサーに更新することで、電気使用量の削減を実施。2020年1月から本格稼働。従来の電気使用量に対して約46%(96,413kwh)の削減効果。3ヶ月（1～3月）の実績で、24,103kwhの削減。</li> <li>・事務所及び休憩室のエアコン計3台を省エネ仕様のエアコンに更新。年間で、3,570kwhの電気使用量の削減。3ヶ月（1～3月）の実績で、1,190kwhの削減。</li> <li>・CPC生産増に伴い、2交替制を導入。溶解炉の効率使用。炉が冷めない状態で使用が可能。</li> <li>・2019年5月より、デマンド契約を2,200kwから2,500kwへ変更。生産効率改善。</li> </ul> <p>(2020年度実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記、コンプレッサー更新による省エネ効果の1年間の実現</li> <li>・上記、エアコン更新による省エネ効果の1年間の実現</li> <li>・工場全棟（工場棟・電気室・事務所棟）のLED未実施箇所309台をLED照明に更新。省エネの観点と蛍光灯の販売中止対応の観点からの実施。</li> </ul> <p>LED照明への変更による電気使用量 52,831kwh/年の削減。今年度は50%</p>

**【森林保全等吸収源対策への取組】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【再生可能エネルギーの導入】**

県内での取組	無	
その他	無	

**【その他特記事項】**

--